

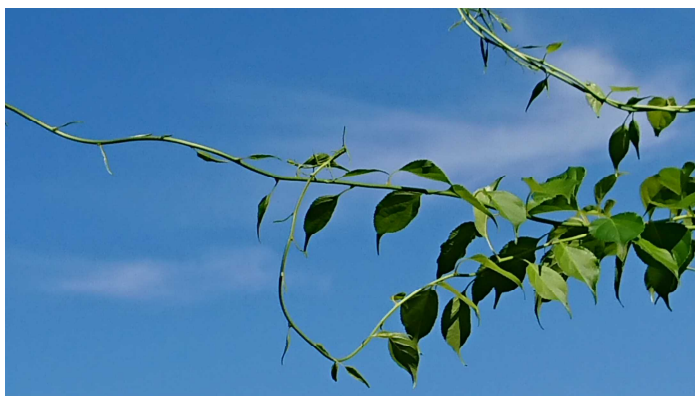


ひょうへん
「豹 変」：ヒョウの毛が季節により美しく抜けかわって、その毛色が鮮やかになることから、態度や行動などが明らかに一変すること。



「明日からは、生まれかわったつもりで勉強する」・・・こどもがときどきそんなけなげな決心を口にするけれども、多くはもとのもくあみで終わる。本人の意志にも問題はあがあるが、まわりのせいもある。本気にしないのである。そのつもりはなくても、足を引っばる。友だちにしてみれば、仲間が急に生まれかわったようになられてはこまるのだ。つきあいにくくしょうがない。いままでどおり仲よくしようや、となるのである。相当な決心もそれでへなへなとなってしまう。ただ、その決心をつらぬきやすいときがある。新学年をむかえた時期だ。

新しい学年は、ほのぼのと胸のふくらむ思いがするものだが、ぼんやり過ごしてはもったいない。すばらしい豹変のできる、年に一度の好機だからである。学年がかわればクラス替えがある。親しい友だちと離れなくてはならない。担任の先生も新しくなる。さみしい、いやだ、というのが一時の感傷である。長い間おなじグループでいっしょにしていると、おたがいの関係が固定する。親しさが増加するといったよいところもあるかわりに、のびのびとした変化がさまたげられやすい。せまいエスカレーターに乗っているようなもので先がつかえる。



新しい学年のはじめのうちは階段をのぼるようなものでかなり自由になる。思いきってかけのぼろうとするならばこのときである。それはまたトランプの配りなおしのようなものでもある。新しく、どんないい札がまわってくるかもしれない。さらにまた、転地（転居）に似ていなくもない。場所をかえると好転する病気がある。環境の変化は心身によい影響をおよぼす。

新学年は変身の可能性を秘めている。新しい学校へ入ったのなら、なおさらのこと大きな飛躍が期待できる。春はルネッサンスの季節で、生まれかわることもけっして夢ではない。